

リベラル鈴鹿 水谷 進 議員

鈴鹿の教育について

(質問) 鈴鹿の教育の現状と課題、それに対する取り組みについて。

(答弁) 近年、環境の変化や価値観の多様化などにより、社会や保護者が学校に求める教育内容や支援内容は、非常に多様で大量なものとなっている。今後ますます増えるであろう個々のニーズや教育課題に対応していくには、従来の学校

の体制や教育環境、あるいは、これまで蓄積してきたノウハウでは困難であると感じている。

そこで、子どもたちが将来幸せな人生を歩めるよう、「知・徳・体」をバランスよく育成するための学校教育を支える施策として、「教職員の資質の向上」、「学校マネジメント力の向上」、「学校教育環境の整備」の3つの取り組みに重点を置いて推進することで、本市の教育の質を高めていく。

その他の質問 ○薬物乱用防止について

鈴鹿の風 永戸 孝之 議員

学校運営について

(質問) 労働時間とメンタルヘルスについて、文部科学省の教員勤務実態調査(平成28年度)の集計では、1週間当たりの労働時間は、小学校で57時間、中学校で63時間となっている。また、過労死ラインとされる月80時間を超える時間外労働は、小学校で3割、中学校で6割との調査結果が報道された。

本市の教職員の労働時間、精神疾患による休職者の現状、今後の取り組みは。

(答弁) 昨今の教育課題の多様化により、時間外労働が常態化している。時間外労働に至る主な要因は、事務処理、指導支援、部活動指導となっている。精神疾患による休職者数は減少傾向にあるものの、教育課題の複雑化による解決の困難によって、教職員がストレスを感じる傾向も強くなっている。全校でのチーム体制の強化、風通しの良い職場環境を推進していく。

自由民主党 鈴鹿市議団 森 雅之 議員

今後の鈴鹿市の農業政策について

(質問) 麦に対しての市単独補助金の現状は。

(答弁) 市単独補助金は、水田農業の維持、農家の経営安定化などに対し大きな役割を果たしてきたが、制度の創設時から米価や地代の下落、国の助成制度の変遷など、集団転作を取り巻く環境も変わってきた。

一方、麦作面積は年々拡大し、予算規模も約1億円となっているが、麦作の耕作者の多くが水田農業の担い手であり、麦作の拡大は、担い手の経

営の安定化にも、地域の水田農業の維持にも貢献している。

このような状況に対し、引き続き地域農業の継続に向け、本市の農業振興に生かせるような補助制度を含め本市の農業施策全体についての検証が必要となる。今後は鈴鹿市農業再生協議会など、農業に関わる関係者の方々と協議を十分重ねながら、持続可能な農業経営、本市の一層の農業振興に向け、取り組みを行っていきたいと考えている。

その他の質問 ○学校のプール・水泳授業について
○鈴鹿市の教育について

リベラル鈴鹿 森田 英治 議員

職員の健康管理について

(質問) 職員の時間外勤務の状況と健康管理について。また、時間外勤務を削減するための具体的な取り組みについて。

(答弁) 1人当たりの年間の時間外勤務について、360時間以内を数値目標としており、全体での年間の総時間外勤務は減少してきている。

1カ月当たりの時間外勤務が80時間を超える

職員に対し、産業医による面接指導を実施している。平成28年度実績では、時間外勤務が年間960時間を超えた職員は3名で、前年より4名減少しているが、改善が必要と認識している。対策として、今年度より、1年を3カ月単位で区切り、時間外勤務の多い職員については、早期に対応を検討している。

メンタルヘルスの取り組みとしては、精神科の嘱託医の設置や、平成28年度にストレスチェック制度の導入などの対策を実施している。

その他の質問 ○ 職員の採用について